

YAMAHA YP-D5

QUARTZ LOCKED AUTO RETURN

取扱説明書



●ごあいさつ

このたびは、ヤマハステレオレコードプレーヤーYP-D5をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

YP-D5は、下記のような数々のすぐれた特長をもつプレーヤーシステムです。ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、末長くご愛用くださいますようお願いいたします。

●目次

特長	2
ご使用になる前に次のことにご注意ください	3
プレーヤー各部の名称・組み立て	4
トーンアームの調整/キューイングレバーの使いかた	6
アンプへの接続/レコード演奏のしかた	8
規格/ブロックダイヤグラム	9
故障と思われるときには	10
サービスのご依頼について	11

●特長

■ダイレクトドライブモーターの心臓部ともいえるサーボ回路にクォーツPLL(水晶発振器を内蔵した位相制御方式)を採用し、モーターの回転精度を極限にまで追求しています。また、QUARTZ SYNCHRO ストロボによりモーターの回転数が定常回転に達したことを確認できます。

■オート機構として、カートリッジの針先が最終溝に入ると自動的にトーンアームが上がり、アームレストに戻りモーターの回転が止まるオートリターン機構、またレコード演奏中任意の位置でカットできるオートカット機構など操作性にすぐれた設計になっています。

■ハイコンプライアンスでレコード音溝の追従性にすぐれたムービングコイル(MC)形カートリッジが付属され、音楽をよりリアルに再生し、高いクオリティーで楽しんでいただけます。

■有効長242mmのロングなストレートアームは、付属のMC形カートリッジの特長を充分に生かします。また強固なアームベースは、±3.5mmのアーム高さ調整可能なアーム部と共に音質重視の設計になっています。

■直径31cmのアルミダイキャスト製ターンテーブルは自重1.25kg(ゴムシート含む)、慣性率が大きくワウフラッターを極限まで抑え滑

らかな回転を得ております。また共振を抑えたゴムシートと共に特性、音質とも非常にすぐれています。

■キャビネットは高密度積層パーティクルボードで形成され、特殊形状の大型インシュレーターと共に外部からの有害な振動を抑えハウリングに強い設計になっています。

●ステレオを楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

■ 設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となりますのでご注意ください。

- ① 直射日光の当る場所や暖房器具のそばなど極端に暑いところ
- ② 温度の特に低いところ
- ③ 湿気やホコリの多い場所

■ ベンジン、シンナー類は大敵

キャビネットをベンジン、シンナー系の液体で拭いたり、化学ぞうきんを使ったり、すぐそばでエアゾールタイプの殺虫剤を散布することは避けてください。ベンジンやシンナー類がつくと、キャビネットが汚れたり変色したりします。

また本機にレコードスプレーを吹きかけることのないよう充分ご注意ください。

お手入れは、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。

■ 取り扱いはていねいに

物をぶつけたり、落したりの乱暴な取扱いは製品に悪い影響を与え、性能を劣化させます。ていねいにお取り扱いください。

■ 振動のない静かな所を

振動の多い場所やスピーカーシステムの近くには置かないでください。台もしっかりしたものを選んでください。

■ 古いレコード針は使わない

針先の寿命は使用するレコードの状態によって異なりますが、ダイヤ針で200～300時間使用したら交換してください。針先が摩滅すると音が歪んだり、ピリついたりして、レコードを傷める原因になります。

■ アンプから離して

接続するオーディオアンプと並べて設置する場合には、アンプの電源トランス側と本機のトーンアーム部をできるだけ離して設置してください。

■ 水平に保つこと

プレーヤーの水平が保たれていませんと、回転速度やトーンアームの動きに悪影響を与えます。必ず水平に設置してご使用ください。

■ 電源電圧はAC100V

定格電圧100Vでご使用ください。また、電源コードは大切にお使いください。特に、コンセントからはずすときは、必ずプラグを持って抜いてください。

※本機は、国内電源AC100V、50/60Hzでお使いください。この電圧以外でのご使用は保証できかねます。

■ MCカートリッジについて

本機に付属のMCカートリッジは出力が非常に小さく、必ずMCヘッドアンプか昇圧トランスを用いてください。

■ 保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意くださいようお願いいたします。

■ 保管してください

この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

■ 組み立て時には

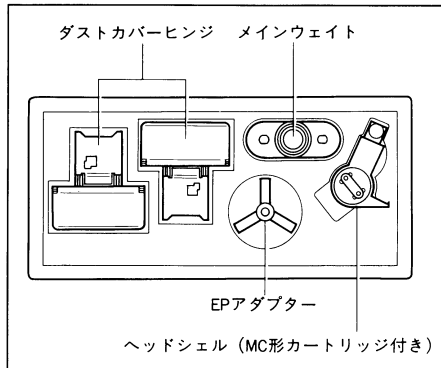
本機はセミオートマチックのプレーヤーですから組み立て時にはこの取扱説明書をよく読んで、正しい手順で行ってください。

YP-D5

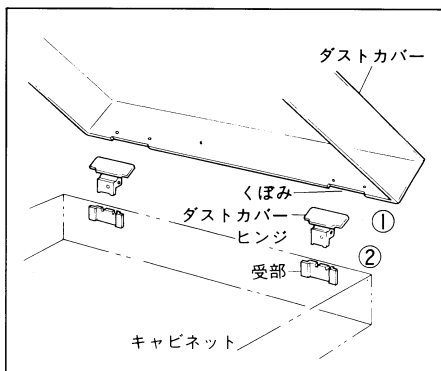
プレーヤー各部の名称・組み立て

各部の名称

各部の名称



1. ダストカバーヒンジを下図のようにダストカバー後面2ヶ所のくぼみに合わせ、それぞれ差し込んでください。(矢印①)
2. 次に、キャビネット後面左右の受部に左右同時に差し込みます。(矢印②)
3. ダストカバーは着脱可能です。取りはずす場合は逆に行ってください。



ゴムシート

ターンテーブルの鳴りを静め、同時にレコードの共振を防ぎます。

ターンテーブル

センターシャフトに静かに差し込んでください。この上にゴムシートを乗せます。

ダストカバー

着脱可能なダストカバーです。ターンアームの組み立ての際には、カバーを取りはずした方が楽にできます。

センターシャフト

モーターの回転をターンテーブルに伝える重要な部分です。

POWERスイッチ

押すとオレンジ色の灯が点灯し、電源ONを示します。もう一度押すと灯が消え電源OFFとなります。

SPEEDスイッチ

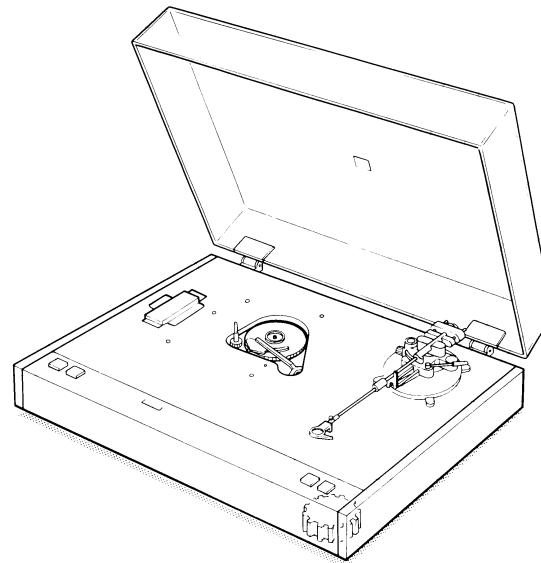
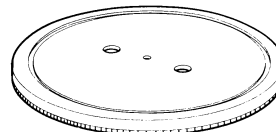
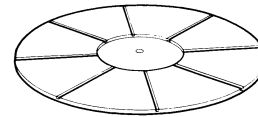
回転数切り換えスイッチです。
 ●回転数33-1/3rpmのレコードを演奏するときは▲33°(スイッチが出た状態)にします。
 ●回転数45rpmのレコードを演奏するときは▲45°(スイッチを押した状態)にします。

QUARTZ SYNCHRO ストロボ

モーター(ターンテーブル)の回転数がクォーツPLLにより定常回転に達し、ロックされたことをこのストロボとターンテーブル周辺のスリットにより確認できます。

ヘッドシェルとカートリッジ

ムービングコイル(MC)形カートリッジを装備した、YP-D5専用特殊形状のヘッドシェルです。ターンアームパイプに差し込むときには、コネクターを傷めないよう真直ぐ静かに押し込んでください。



インシュレーター
 W型ブチルゴムの大型インシュレーターです。

アームレスト/アームロック
 運搬時には必ずアームレストにターンアームを戻し、ロックしてください。

ロックツマミ
 トーンアームの高さを調整し、ベースシャフトに固定するときは、ロックツマミをしっかり締めてください。

メインウェイト
 トーンアームのバランス調整をします。

インサイドフォースキャンセラー
 スプリングレバー式です。調整は6頁を参照してください。

キューイングレバーとアームリフター
 針先(トーンアーム)をレコード面からなめらかに上げ下げさせるオイルダンプ方式です。

針圧調整用ウェイト
 針圧を決定します。トーンアームのバランス調整の際にはウェイト手前を"0"線に合わせて行ないます。

トーンアーム
 針圧調整目盛りリストレートアームです。精密部品で構成されています。無理な力は加えないでください。

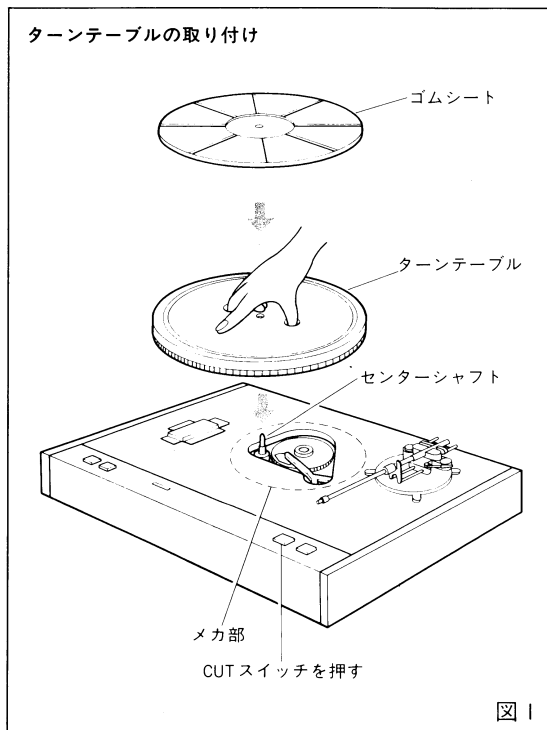
CUTスイッチ
 レコード演奏を途中でやめたいときこのスイッチを押しますと、トーンアームが上がりアームレストに戻り、モーターの回転も止まります。

PLAYスイッチ
 ターンテーブルにレコードを乗せ、カートリッジの針先をレコードの演奏したい場所の上に持ってゆきます。次にこのスイッチを押しますと、針先が静かにレコード面上に降下します。ただしキューイングレバーを手前に引いた状態(トーンアームダウンの状態)にしておきます。

●ターンテーブル、トーンアームの組み立てと針交換のしかた

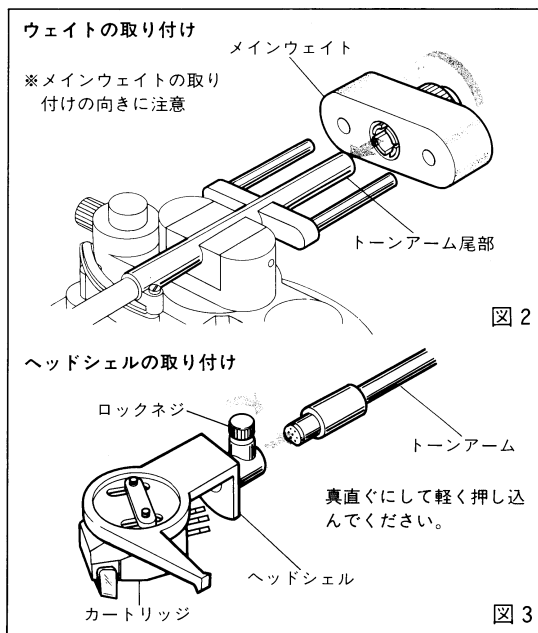
①ターンテーブルの取り付け

1. 図1のようにターンテーブルの2つの穴に指を入れて、センターシャフトに静かに差し込んでください。(ターンテーブルを回転させたとき、ターンテーブル周辺が上下に振れることのないようしっかり差し込んでください。)
2. ターンテーブルの上にゴムシートを乗せてください。
※上記の操作時にはメカ部に手を触れないようにして、組み立てが終わった後必ずCUTスイッチを押してください。



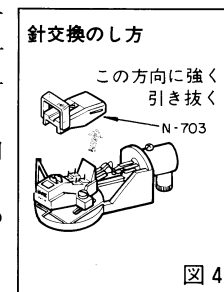
②トーンアームの組み立て

1. 図2のようにメインウェイトの黒い部分を矢印の方向に回しながらトーンアーム尾部より押し込みます。
2. メインウェイト内部のラセン溝とアーム尾部のクリックストッパーがかみ合い、メインウェイトはアーム正面から見て反時計方向(左)に回すと前へ、時計方向(右)に回すと後ろへとスムーズに移動するようになります。
3. カートリッジの付いたヘッドシェルを、シェルのロックネジをゆるめてアーム先端へ差し込み、ロックネジを締めて固定します。このときシェル内部のピン4本を傷めないよう真直ぐにして軽く押し込んでください。(図3)



③針交換のしかた

針交換は図4のように矢印方向に針部を引き抜き、取り付けは逆に行いません。交換針はN-703をご使用ください。針の交換時期はダイヤ針使用で200～300時間後です。レコードを傷めないためにも早めに交換するようにしてください。



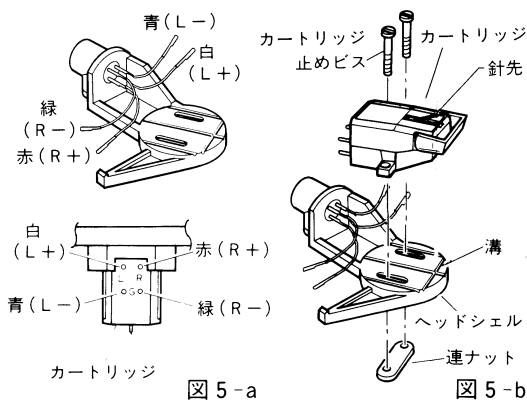
●カートリッジの取り付け

本機にはMC形カートリッジが付属しておりますが、このほかに自重4～10gまでのMC形あるいはMM形カートリッジが取り付けられます。

1. 図5-aのようにヘッドシェルのリード線をカートリッジの各ピンに正しく接続してください。
2. カートリッジを固定(オーバーハングの調整)します。図5-bのようにカートリッジの針先とヘッドシェルの溝の交点を縦横共に合わせて固定します。

カートリッジの取り付け

オーバーハングの調整



YP-D5

トーンアームの調整は、下に示した順序で行なってください。

1. バランス調整

2. 針圧調整

3. インサイドフォース
キャンセラーの調整

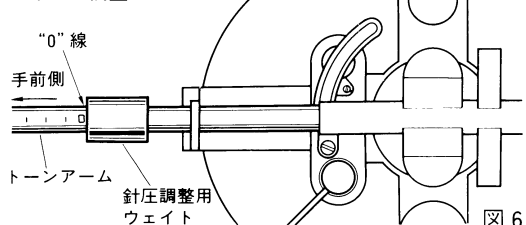
4. トーンアーム
の高さ調整

① トーンアームのバランス調整

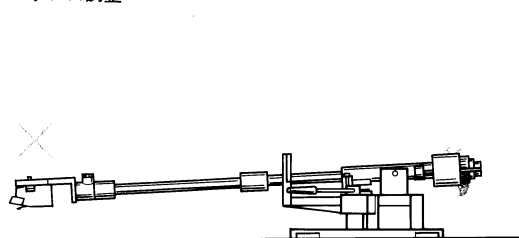
カートリッジの取り付けとトーンアームの組み立てが終わりましたら、バランス調整をします。

1. キューイングレバーを手前に引いた状態（トーンアームダウンの状態）にし、PLAYスイッチを押してアームリフターを下げおきます。
2. 針圧調整用ウェイトの手前側をトーンアームの“0”線（一番奥の位置）に合わせておきます。（図6）
3. カートリッジの針カバーを上げ（取りはずしのできる針カバーははずしてください）、アームロックをはずしトーンアームをアームレストから引き出します。
4. ヘッドシェルフィンガーから軽く指をはなしてトーンアームの水平バランスを調べます。ヘッドシェル側が重ければ頭部が下がります。
5. トーンアームが完全に水平になるように図7を参考にして、メインウェイトを前後させ調整します。
6. 完全にバランスがとれましたら、トーンアームをアームレストに戻しておきます。

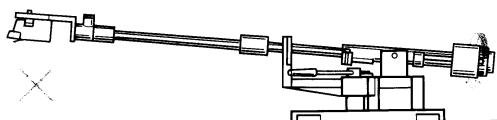
バランス調整



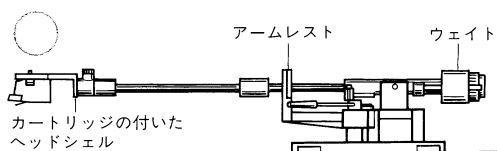
バランス調整



頭部が重すぎる（矢印方向にウェイトを回す）



尾部が重すぎる（矢印方向にウェイトを回す）



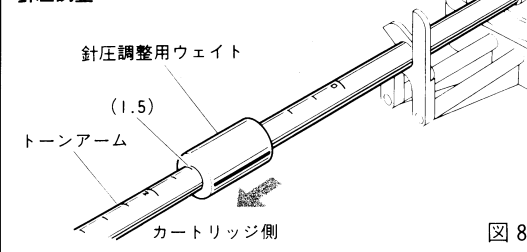
完全にバランスのとれた状態

図7

② 針圧調整

1. 水平バランスがとれた時のメインウェイトの位置を動かさないようにしてください。
2. 付属のカートリッジの適正針圧は1.5gですから、針圧調整用ウェイトの手前側がトーンアームの針圧目盛1.5の位置にくるまでゆっくり移動させてください。（図8）

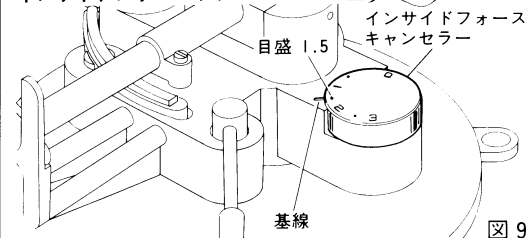
針圧調整



③ インサイドフォースキャンセラーの調整

付属のカートリッジの適正針圧が1.5gですから、図9のようにインサイドフォースキャンセラーのつまみをゆっくり右に回してゆき、1.5の目盛を基線に合わせてください。

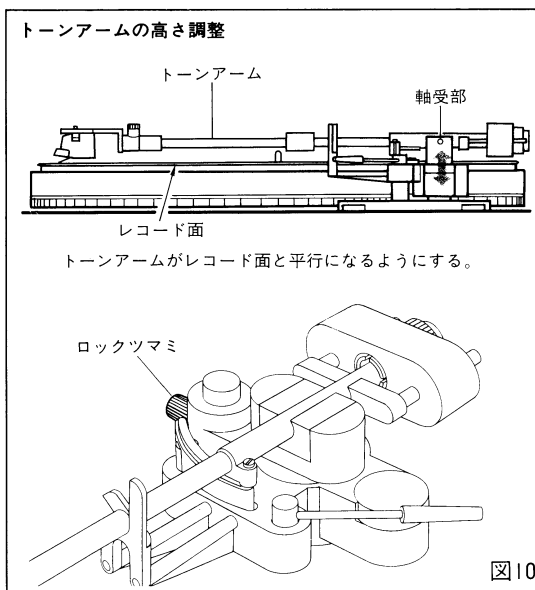
インサイドフォースキャンセラーの調整



④ トーンアームの高さ調整

(出荷時には付属のカートリッジに合わせて高さ調整されています。)

1. キューイングレバーを後側に押した状態にしておきます。(トーンアームアップの状態)
 2. カートリッジの針カバーを上げてください。(取りはずしのできる針カバーははずしてください。)
 3. ターンテーブルにレコードを乗せ、針先をレコード面上に持ってゆきます。
 4. キューイングレバーを手前に引いて針先をレコード面に降ろします。
 5. レコード面とトーンアームパイプの平行状態を横から目で見ても軸受け部が高いか低いかを調べてください。(図10)
 6. キューイングレバーを後に押し込み、アームをアップさせます。
 7. アームベース部のロックツマミをゆるめ、トーンアーム全体を静かに上下させ調整します。(図10)
 8. 再びキューイングレバーを手前に引き(アームをダウンにし)、平行度を確認します。
 9. トーンアームとレコード面の平行がとれましたらロックツマミをしっかり締めておきます。
- (注)この調整を行なうときは、針先やレコード面を傷つけないよう慎重に操作してください。



● キューイングレバーの使い方

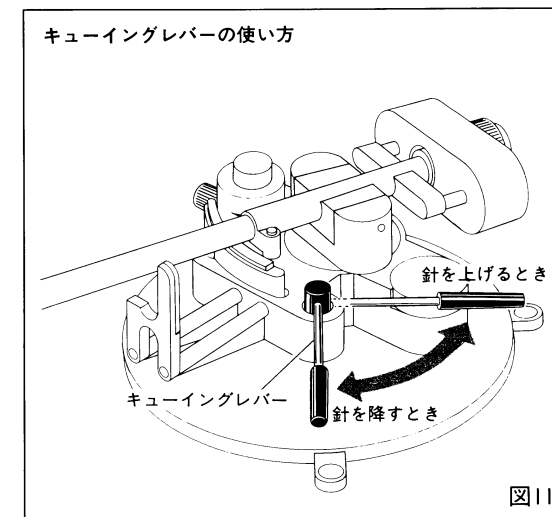
本機は、通常キューイングレバーを手前に引いた状態(トーンアームダウンの状態)にしており、CUT及びPLAYスイッチで直接ヘッドシェルに手を触れることなくトーンアームの昇降ができますが、レコード演奏を一時中止したい場合などはキューイングレバーでなめらかに針先を上げ下げでき、レコードや針先を傷つける心配がありません。

1. 針を上げるとき

キューイングレバーを静かに後側へ押ししてください。針先はレコード面から離れます。(図11)

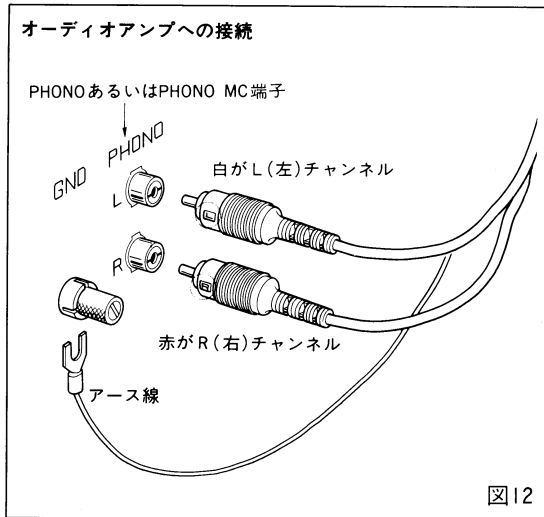
2. 針を降すとき

キューイングレバーを静かに手前(1と反対方向)に引いてください。針先はレコード面の元の位置にゆっくりと降り再び演奏を始めます。(図11)



●アンプへの接続

1. 本機に付属のカートリッジはMC形カートリッジですから、MCヘッドアンプ内蔵のオーディオアンプか、オーディオアンプとMCヘッドアンプあるいは昇圧トランスを併用してご使用ください。
2. キャビネット背面から出ている出力コードを、オーディオアンプのPHONO (PHONO MC) 端子に接続します。このときL・Rを間違えないようにしてください。白がL(左)チャンネルで、赤がR(右)チャンネルです。(図12)
3. 出力コードから出ている黒のアース線を、オーディオアンプのGND(アース)端子に接続します。アンプによってはアース線を接続しない方がハム雑音に対してよい結果を得ることがありますので、このような場合にはハム雑音の少ない方を選んでください。(図12)
4. 電源プラグをACコンセントか、オーディオアンプの予備電源コンセントに接続してください。



●レコード演奏の手順

本機の組み立てと調整、アンプへの接続が終わりましたら、次の順序でレコード演奏をお楽しみください。

①プレーヤー、アンプ、スピーカーの接続コードをチェックしてください。

- 電源コード→ACコンセントかアンプの予備電源コンセント
- 出力コード→アンプのPHONO (PHONO MC) 端子 (L・Rを間違えないように)
- アース線→アンプのGND (アース) 端子それぞれ正しく接続されているかどうか確認してください。

②接続したアンプを動作状態にします。

アンプの電源をONにし、FUNCTION (入力切り換え) スイッチを"PHONO"あるいは"PHONO MC"の位置にセットします。アンプのボリュームは絞っておいてください。

③本機のPOWERスイッチをONにし、演奏するレコードを静かにターンテーブルに乗せてください。

45回転EPレコードは、付属のEPアダプターをターンテーブルのセンターシャフトに差し込んでください。

④ターンテーブルに乗せたレコードの回転数に合わせて、SPEEDスイッチをセットします。

⑤キューイングラバーを手前に引いた状態(トーンアームダウンの状態)にしておき、カートリッジの針先をレコードの演奏したい場所の上に持ってゆきます。

ターンテーブルが回転を始め、QUARTZ SYNCHRO ストロボが点灯します。

⑥PLAYスイッチを押します。

トーンアームがレコード面に静かに降ります。

⑦レコード演奏

アンプのボリューム、音質を適当に調節してお聴きください。

⑧レコード演奏が終わるとトーンアームがアップし、アームレストに戻ります。同時にターンテーブルの回転も止まります。

- 途中で演奏をやめたい場合はCUTスイッチを押してください。トーンアームはアップしアームレストに戻り、ターンテーブルの回転が止まります。
- 演奏を一時中止したい場合はキューイングラバーを操作(7頁参照)してください。

⑨POWERスイッチを押し電源をOFFにし、ダストカバーを閉じておきます。

YP-D5

規格 ブロックダイヤグラム

●規格

■フォノモーター部

駆動方式……………ダイレクトドライブ
 モーター……………コアレスホールモーター
 サーボ形式……………クォーツロック
 起動トルク……………700g・cm
 回転数……………33-1/3r.p.m、45r.p.m
 ストロボ……………水晶発振器によるパルス点灯式
 ターンテーブル……………直径31cm、アルミダイカスト
 重量1.25kg (ゴムシート含む)
 慣性モーメント……………165kg・cm²(ゴムシート含む)

■トーンアーム部

型式……………スタティックバランス・ストレートアーム
 針圧印加……………スライディングウェイト式
 0 ~ 3g、0.25g ステップ
 アーム全長……………305mm
 アーム有効長……………242mm
 オーバーハング寸法……………15mm
 オフセット角……………21°15'
 トラッキングエラー……………外周+2.5°、内周+0.5°
 針先等価質量…針圧比例型(カートリッジレス時)

針圧1.0g……………11.0g
 針圧1.5g……………11.5g
 針圧2.0g……………12.0g

カートリッジ適用重量範囲……………4 ~ 10g
 インサイドフォースキャンセラー……………
 スプリングレバー式
 アームリフター……………オイルダンブ式キューイング
 ヘッドシェル……………専用カーボンファイバー入り
 プラスチックシェル 重量4.5g

ハイトアジャスト……………±3.5mm
 P Uコード容量……………100pF以下

■カートリッジ部

品番……………MC-703、交換針N-703
 変換方式……………ムービングコイル (MC)形
 発電コイル……………V字形左右独立コイル
 針先形状……………15ミクロン(接合ダイヤモンド)
 出力電圧……………0.3mV(1KHz 5cm/sec Peak 45°)
 チャンネルバランス……………2 dB以内 (1 KHz)

チャンネルセパレーション……………20dB以上 (1 KHz)
 電気インピーダンス……………11Ω ±20% (1 KHz)
 周波数特性……………2 dB ± 3 dB
 (15KHz代表点、基準1 KHz)
 針圧……………1.5g ± 0.3g
 ダイナミックコンプライアンス……………
 6.0 × 10⁻⁶cm/dyne(100Hz)(水平、垂直両方向)
 パーティカルトラッキング角……………22° ± 5°
 重量……………5g

■キャビネット

外装材質……………パーティクルボード
 化粧……………サイド; PVCブラック
 トップ; PVCシルバー
 フロントパネル……………アルミヘアライン仕上
 ダストカバー……………クリアスチロール
 ヒンジ……………フリーストップ、着脱式
 (フリーストップは40°以上開いた時有効)
 インシュレーター……………W形ブチルゴム
 インシュレーター

■オート機能

オートリターン、オートカット

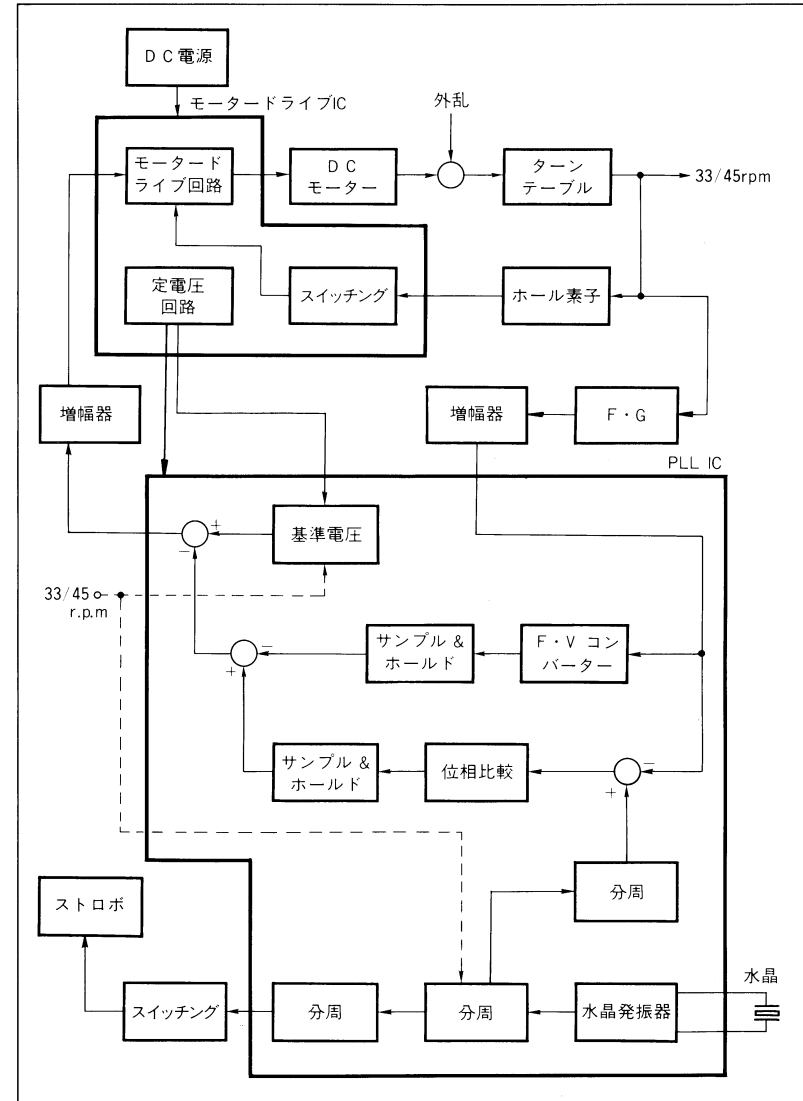
■コントロール部

電源スイッチ (ON/OFF)
 回転数セクター
 (ノーマル33-1/3r.p.m、プッシュ45r.p.m)
 プレイ (キューイングダウン)
 カット (オートカット動作)
 マニュアルキューイングレバー

■総合

S N比……………55dB (JIS Weighted)
 72dB (IEC 98A Weighted)
 ワウ・フラッター……………0.04% (JIS WRMS)
 ±0.055%ピーク (IEC 98A Weighted)
 外形寸法 (W×H×D)mm……………470×150×370
 総重量……………8.5kg
 定格電源電圧、周波数……………AC100V、50/60Hz
 定格消費電力……………7W
 《規格及び外観は改良のため予告なく変更されることがございます。》

●ブロックダイヤグラム (モーター部)



故障と思われるときには

本機をご使用中に正常に動作しなくなった時は、次の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは疑問の点がございましたら、お買い上げ店又は日本楽器各支店のステレオサービス係にサービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
POWERスイッチを押してもスイッチ内のランプが点灯しない	電源コードがA Cコンセントかアンプの予備電源コンセントにしっかり差し込まれていない	A Cコンセントかアンプの予備電源コンセントにしっかり差し込み直してください
カートリッジを交換した時など（ゼロ）バランスがとれない	カートリッジが重いか、または軽すぎる	カートリッジ重量適用範囲は4～10gです。範囲内であればウェイトを前後にずらして再調整してください
PLAYボタンを押してもトーンアームが降りない	キューイングレバーでトーンアームが上がった状態になっている	キューイングレバーを手前に引いた状態にしてください
針先をレコード面に降ろしても音が出ない、または小さい	ヘッドシェルコネクターの接触不良	ヘッドシェルをトーンアームに正確に取り付けてください
	アンプのファンクションがPHONOあるいはPHONO MCになっていない	ファンクションを正しくPHONOあるいはPHONO MCに合わせてください
	アンプのボリュームが絞られている	ボリュームを適当な位置まであげてください
	プレーヤーの出カコードの接続不良	アンプ、リアパネルの接続端子を確認してください
カートリッジの腹がレコード面に接触する	針圧が重すぎる	適正針圧に再調整してください
	トーンアームの高さが不適當	トーンアームの高さを正しく調整してください
再生音が歪んでいて聴きにくい、または“チリ、チリ”、“バチ、バチ”という音がし、特に高音域がひずんで汚ない	プレーヤーが水平でなく傾いている	水平に設置し直してください
	針先にホコリなどが付着している	針先を針先掃除用刷毛などできれいにしてください
	針先が摩耗している	針先を交換してください
	レコード自体が痛んでいたり、ホコリやゴミがついている	レコードを新しいものと交換してください
	針圧が軽すぎるか重すぎる	使用カートリッジの適正針圧に調整し直してください
再生音がふるえたり、ハウリング（ポワーンという音）を起こして聴きにくい	アンプの高音をあげすぎている	高音をFLATポジションに戻してみてください
	プレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定で振動が伝わり共振している	しっかりした場所に移したり、スピーカーから遠ざけるなど設置場所を変えてください（特に部屋のコーナーは避けてください）
レコード演奏のとき“ブーン”というハム音が入る	プレーヤーのアース線をアンプのアース端子に接続していない	アース線をアース端子に接続してください（接続しない方がよい場合もあります）
	ヘッドシェルコネクターの接触不良	ヘッドシェルをトーンアームに正確に取り付けてください

●サービスのご依頼は、お買い上げ店、または日本楽器各支店ステレオサービス係へお願いいたします。

●本機の保証は、保証書によりご購入日から満1ヵ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。

●保証期間の1ヵ年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。なお、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。尚、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービスネットワーク（ステレオサービス係）宛お問い合わせください。

●サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中“故障と思われるときには…”の項をお読みになってください。意外と故障ではない場合があるものです。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきますのでご注意ください。)

●サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(ステレオの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければなら

ないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

●日本楽器各支店への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買い上げ店、又は最寄りの日本楽器各支店へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右のステレオサービス係又は裏表紙の日本楽器各支店の所在地と電話番号をご参照ください。)

●ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)

●サービスのお約束

昼間ご不在がちなお客さまや留守がちのお客さまは、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようお願いいたします。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)

■サービスネットワーク(ステレオサービス係)

北海道事業所・〒064	札幌市中央区南十条西1丁目(ヤマハセンター内) TEL (011)512-6111
仙台事業所・〒983	仙台市原町南目薬師堂北2-1(宮城野センター) TEL (0222)95-6111
北関東営業所・〒370	高崎市歌川町8番地(高崎センター内) TEL (0273)27-3366
千葉・〒280	千葉市千葉港2-1(千葉中央コミュニティセンター内) TEL (0472)47-6611
東京事業所・〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03)255-2241
横浜営業所・〒231	横浜市中区本町6-61-1(ヤマハ桜木町センター) TEL (045)212-3111
浜松営業所・〒430	浜松市田町32(東京海上ビル5F) TEL (0534)54-4115
名古屋事業所・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
北陸営業所・〒921	金沢市泉本町7-7(ヤマハ金沢センター) TEL (0762)43-6111
大阪事業所・〒550	大阪市西区江戸堀1-9-1(肥後橋センタービル6F) TEL (06)445-6421
神戸出張所・〒651	神戸市灘区浜辺通り6-1-36 TEL (078)232-1111
四国営業所・〒760	高松市西宝町2丁目6-44(高松センター) TEL (0878)33-2233
岡山出張所・〒700	岡山市本町6-30(フジビル9F) TEL (0862)32-3802
広島営業所・〒731-01	広島市祇園町西原862 TEL (08287)4-3787
九州事業所・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)472-2151

日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430・浜松市中沢町10-1 TEL・0534(65)1111	名古屋支店	〒460・名古屋市中区錦1-18-28 TEL・052(201)5141
東京支店	〒104・東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL・03(572)3111	北陸支店	〒921・金沢市泉本町7-7 TEL・0762(43)6111
銀座店	〒104・東京都中央区銀座7-9-14 TEL・03(572)3131	九州支店	〒812・福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL・092(472)2151
横浜支店	〒231・横浜市中区本町6-61-1 TEL・045(212)3111	福岡店	〒810・福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内 TEL・092(721)7621
横浜店	〒220・横浜市西区南幸2-15-13 TEL・045(311)1201	小倉店	〒802・北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL・093(531)4331
千葉支店	〒280・千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内 TEL・0472(47)6611	北海道支店	〒064・札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL・011(512)6111
関東支店	〒370・高崎市歌川町8番地/高崎センター内 TEL・0273(27)3366	仙台支店	〒983・仙台市原町南目薬師堂北2-1 TEL・0222(95)6111
大阪支店	〒564・吹田市新芦屋下1-16 TEL・06(877)5151	仙台店	〒980・仙台市一番町2-6-5 TEL・0222(27)8511
心斎橋店	〒542・大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL・06(211)8331	広島支店	〒730・広島市紙屋町1-1-18 TEL・0822(48)4511
神戸支店	〒651・神戸市灘合区浜辺通り6丁目1の36 TEL・078(232)1111	浜松支店	〒430・浜松市出町32 TEL・0534(54)4115
神戸店	〒650・神戸市生田区元町通2-188 TEL・078(321)1191	浜松店	〒430・浜松市鍛冶町122 TEL・0534(54)4111
四国支店	〒760・高松市西宝町2丁目6-44 TEL・0878(33)2233	海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ シンガポール・フィリピン
四国店	〒760・高松市丸亀町8-7 TEL・0878(51)7777		